１２　大学・大学院

[Ⅰ-12-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

・　55校で、前年度と同数である。

・　設置者別では、国立2校(構成比3.6％)、公立2校(同3.6％)、私立51校(同92.7％)である。

[Ⅰ-12-1表]

（２）学生数

・　246,839人（男子148,165人、女子98,674人）で、前年度より1,663人増加している。

・　設置者別では、国立28,686人(構成比11.6％)、公立16,197人(同6.6％)、私立201,956人(同81.8％)である。

・　昼夜別では、昼間245,102人(構成比99.3％)、夜間1,737人(同0.7％)である。

・　内訳は、学部226,452人(構成比91.7％)、大学院17,778人(同7.2％)、専攻科123人(同0.0％)、別科578人(同0.2％)、その他(科目等履修生・聴講生・研究生)1,908人(同0.8％)である。

 [Ⅰ-12-1表・統計表58・統計表61]

（３）学部学生数

・　226,452人（男子134,788人、女子91,664人）で、前年度より3,043人増加している。

・　設置者別では、国立19,144人(構成比8.5％)、公立12,500人(同5.5％)、私立194,808人(同86.0％)である。

・　昼夜別では、昼間224,922人(構成比99.3％)、夜間1,530人(同0.7％)である。

・　分野別では、社会科学関係81,142人(構成比35.8％)、人文科学関係32,393人(同

14.3％)、その他30,601人(同13.5％)の順である。

[Ⅰ-12-2表・Ⅰ-12-1図・統計表61]

[Ⅰ-12-2表] 　 分野別学部学生数



[Ⅰ-12-1図] 　　　　分野別学部学生数の割合



 [Ⅰ-12-2図]　女子学生の占める割合



（４）入学状況

・　入学者数は56,154人（男子33,366人、女子22,788人）で、前年度より1,969人増加している。

年齢別では、18歳が最も多く、44,375人(構成比79.0％)である。

・　出身高等学校の所在地別にみると、近畿地方出身者は45,256人(構成比80.6％)で

　　ある。また、大阪府内高等学校出身者は27,578人（同49.1％）である。

　　　　　　　 [Ⅰ-12-3表・統計表63]

[Ⅰ-12-3表] 出身高校の所在地別入学者数と大阪府内高校卒業者の大学所在地別入学者数



（５）大学院の学校数

・　45校で、前年度より1校減少している。

・　設置者別では、国立3校(構成比6.7％)、公立2校(同4.4％)、私立40校(同88.9％)であ

　　る。 [統計表59]

（６）大学院学生数

・　17,778人（男子12,016人、女子5,762人）で、前年度より323人減少している。

・　設置者別では、国立8,546人(構成比48.1％)、公立3,511人(同19.7％)、私立5,721人(同

32.2％)である。

・　昼夜別では、昼間17,572人(構成比98.8％)、夜間206人(同1.2％)である。

・　課程別では、修士課程10,935人(構成比61.5％)、博士課程5,721人(同32.2％)、専門職学

位課程1,122人(同6.3％)である。

・　専攻分野別では、工学関係6,364人(構成比35.8％)、保健関係3,101人(同17.4％)、社会科学関係2,625人(同14.8％)の順である。

 [Ⅰ-12-1表・Ⅰ-12-4表・統計表58・統計表61・統計表65]

[Ⅰ-12-4表] 　 　　専攻分野別大学院学生数



（７）教員数（本務者）

・　13,911人(男性10,498人、女性3,413人)で、前年度より293人増加している。外国人教員(学長・副学長を除く)は1,093人(構成比7.9％)である。

・　設置者別では、国立3,565人(構成比25.6％)、公立1,373人(同9.9％)、私立8,973人(同64.5％)である。

[Ⅰ-12-1表・統計表66・統計表67]

１３　短期大学

[Ⅰ-13-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

23校で、前年度と同数である。

 [Ⅰ-13-1表]

（２）学生数

・　9,925人（男子904人、女子9,021人）で、前年度より457人減少している。

・　昼夜別では、昼間9,759人(構成比98.3％)、夜間166人(同1.7％)である。

・　内訳は、本科9,575人(構成比96.5％)、専攻科67人(同0.7％)、別科66人(同0.7％)、その他(科目等履修生・聴講生・研究生)217人(同2.2％)である。

 [Ⅰ-13-1表・統計表68・統計表71]

（３）本科学生数

・　9,575人（男子870人、女子8,705人）で、前年度より455人減少している。

・　昼夜別では、昼間9,409人(構成比98.3％)、夜間166人(同1.7％)である。

・　分野別では、教育関係3,068人(構成比32.0％)、人文科学関係2,058人(同21.5％)、家政関係1,492人(同15.6％)の順である。

 [Ⅰ-13-1表・Ⅰ-13-2表・Ⅰ-13-1図・統計表71]

[Ⅰ-13-1図] 　　分野別本科学生数の比率



[Ⅰ-13-2表] 　　分野別本科学生数



（４）本科学生の入学状況

・　入学者数は4,513人（男子454人、女子4,059人）で、前年度より235人減少している。

年齢別では、18歳が最も多く、3,913人(構成比86.7％)である。

・　出身高等学校の所在地別にみると、近畿地方出身者は3,973人(構成比88.0％)である。また、大阪府内高等学校出身者は3,000人（同66.5％）である。

 　　[Ⅰ-13-3表・統計表73]

[Ⅰ-13-3表]　出身高校の所在地別入学者数と大阪府内高校卒業者の短期大学所在地別入学者数



（５）教員数（本務者）

591人（男性263人、女性328人）で、前年度より25人減少している。外国人教員(学長・副学長を除く)は61人(構成比10.3％)である。

　[Ⅰ-13-1表・統計表75・統計表76]

１４　大学・大学院・短期大学の通信教育

[Ⅰ-14-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

5校(通信制の学部を置く大学3校、短期大学2校)で、前年度と同数である。なお、全国では64

校（大学44校、大学院27校、短期大学11校で、このうち大学と大学院の両方で通信教育を行

う大学19校）である。

[Ⅰ-14-1表]

（２）学生数

・　9,106人（男子3,103人、女子6,003人）で、前年度より401人減少している。

・　内訳は、正規の課程4,801人(大学2,227人、短期大学2,574人)、科目等履修生・聴講生4,291人(大学3,680人、短期大学611人)である。

・　正規の課程の学生について、職業別では、無職2,903人(構成比60.5％)、会社(商店)員・銀行員等1,022人(同21.3％)、その他382人（同8.0％）の順である。 また、年齢別では、18歳～22歳1,932人(構成比40.2％)、23歳～24歳290人(同6.0％)、25歳～29歳497人(同10.4％)、30歳～39歳656人(同13.7％)、40歳～49歳718人(同15.0％）、50歳～59歳470人(同9.8％)、60歳以上238人(同5.0％)である。

 [Ⅰ-14-1表・統計表77・統計表78・統計表79]

１５　高等専門学校

[Ⅰ-15-1表] 　　主要指標の推移



（１）学校数

1校(公立)で、前年度と同数である。

[Ⅰ-15-1表]

（２）学生数

・　864人（男子753人、女子111人）で、前年度より9人増加している。

・　内訳は、本科学生820人、専攻科、科目等履修生・聴講生44人である。

・　教員（本務者）１人当たりの学生数は12.9人で、前年度より0.5人増加している。

 [Ⅰ-15-1表・統計表81]

（３）教員数（本務者）

67人で、前年度より2人減少している。

 [Ⅰ-15-1表]

１６　留学生

[Ⅰ-16-1表] 　　主要指標の推移



（１）留学生数

・　9,375人（男子4,807人、女子4,568人）で、前年度より124人減少している。

・　内訳は、大学5,944人（構成比63.4％）、大学院3,275人（同34.9％）、短期大学156人（同1.7％）である。

・　費用別では、国費留学生722人（構成比7.7％）、私費留学生8,653人（同92.3％）である。

[Ⅰ-16-1表]

（２）国籍・地域別留学生数

・　国籍別では、中国5,765人（構成比61.5％）、ベトナム902人（同9.6％）、韓国・朝鮮755人（同8.1％）の順である。

・　地域別では、東南アジア地域8,351人（構成比89.1％）、北米地域236人（同2.5％）、西ヨーロッパ地域230人（同2.5％）の順である。

 [Ⅰ-16-2表・Ⅰ-16-1図・統計表83]

[Ⅰ-16-2表] 　　国籍・地域別留学生数



[Ⅰ-16-1図] 国籍・地域別留学生数の割合

その他

台湾

アメリカ

合衆国

韓国・朝鮮

ベトナム

中国

アメリカ

合衆国

台湾

その他

アメリカ合衆国

（３）専攻分野別留学生数

社会科学関係3,967人（構成比42.3％）、人文科学関係1,931人（同20.6％）、工学関

係1,505人（同16.1％）の順で、前年度より工学、医・歯学、教育、その他の分野で増加し

ている。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　[Ⅰ-16-3表・Ⅰ-16-2図]

[Ⅰ-16-3表] 専攻分野別留学生数



[Ⅰ-16-2図] 専攻分野別留学生数の割合

